



## 私の3冊

梅崎成子

### 後輩に薦める 2 冊

砂原茂一 (著)

#### リハビリテーション

岩波新書, 1980 年発行

WHO の国際障害分類案が公表された年に出版された, リハビリテーションの理念について書かれた本です。一般向けの本ですが, リハビリテーション専門職が読んでも十分に読みごたえがあります。多職種の中で働いていると, 作業療法とは何か, 自分は何をすべきかわからなくなるときがありますが, そんなときにぜひ手にとって読んでいただきたい本です。力が湧いてきます。

山鳥 重 (著)

#### 神経心理学入門

医学書院, 1985 年発行

高次脳機能障害のリハビリテーションの経験が 2, 3 年以上ある人にお薦めします。内容は本格的ですが, わかりやすい言葉が用いられ, 読み物として読み進められます。実際の臨床は教科書通りでないことばかりです。また, 高次脳機能障害の新しい知見が次々に出され, 消化不良のまま頭でっかちになりがちです。そんなときに, 目の前の患者との向き合い方や考え方の示唆を与えてくれる本です。

### 自分の 1 冊

伊藤亜紗 (著)

#### 目の見えない人は世界をどう見ているのか

光文社新書, 2015 年発行

目の見えない人が, どのように身体を使って, 世界をどう捉えているのかを, 美学と現代アートを専門とする著者が論じたものです。自分が見ているものが絶対的なものではなく, 人間には自分の知らない潜在的な可能性があることに気づかせてくれます。この本を読んで, 担当する患者さんのものの見方, 体の使い方, 世界の捉え方を理解できるセラピストになりたいと思いました。

■ うめざき・しげこ 作業療法士 12 年目 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部

脳・神経疾患, 整形外科疾患, がんの方などを対象とした急性期作業療法に従事しています。院内の緩和ケアチームに参加しています。関心領域は, 高次脳機能障害全般, 脳腫瘍患者および家族の QOL です。最近は, 院内外での多職種連携の大切さを痛感しています。